

◇ 卒業論文要旨

(昭和53年3月卒業生)

川崎市高津区の都市化に関する地理学的考察

新 木 万里子

(1) 目 的

調査地域の川崎市高津区は、都心から15～20km圏内に位置し、多摩川を境にして東京と隣接している。当地域の特色に都市的土地利用と農村的土地利用が混在していることがある。このような現況は、どのような変化を遂げて見られるようになったのかを当地の都市化を考察することにより、明らかにしたい。最終的には、都市化と残存している農業の関係を考察することを目的とした。

(2) 枠 組

地域の概観を述べたあと、他地域と比べた高津区の都市化を人口集積の面から考察する。次に明治時代以降を6期に分け、高津区の都市化の性格を時代毎に追っていく。この時、旧版の地形図から土地利用図を作成し、土地利用の特徴を明らかにしながら進めてゆく。最後に都市化地域での農業について、主にフィールドワークを中心にその実態を明らかにしようと試みた。

(3) 結 果

高津区の都市化を東京・横浜との関係からみると、多摩川北岸の東京の都市化型とは別に、多摩川南岸川崎・横浜の型で進行したことがわかった。隣接の世田谷区と比べると都市化の進行に約20年間、距離にして約10km遅れている。この差は地価においても存在した。地形の制約及び多摩川を越えることで心理的な距離が加わるためではないかと思う。

歴史的には、明治・大正時代大山街道の宿場であった二子・溝ノ口に商業機能が見られた以外は純農村であった当地域では、低地で昭和10年代から都市化が始まった。昭和33年頃より丘陵部へも都市化が始まる。人口の急増がそれを物語るが、その中でも東京からの転入者が多くこの頃より東京のベッドタウンという当地の性格があらわされていることがわかる。さらに、郊外電車(東急田園都市線)の昭和41年の延長と前後して、多摩田園都市計画という人為的な街づくりによって都市化は急激に丘陵地に飛地状に進行した。

このような都市化の中で、もともとは基幹産業であった農業は年々衰退傾向にある。環境の悪化と共に都市計画区域であるための過重な税金等、悪条件が重なっている。この悪条件の中で残っている農業は、農地を残すために行なわれている趣味的農業と、大都市近郊であるということを利用する形で行なわれている観光梨園・貸鉢業を代表とする観光化・集約化した農業である。このいずれも、アパート経営等の不動産収入にささえられていることが多い。この地域の将来を考えると、先の2つのタイプにさらにはっきりと分かれてくるのではないかと。そして、生計をたてるため、税金対策のために安定した収入を求めて不動産収入にたよることになると思われる趣味的農業の場合は、今の老人の

代が過ぎると脱農が考えられ、観光化・集約化された農業が不動産収入にささえられながら残って行くであろう。

結城市の地域性に関する考察

－農業と紬生産を中心として－

磯 前 厚 子

(1) 目 的

結成は、古代から麻や穀〔ゆう〕の木がよく育つところとして、昔から農業が発達し、また、その農業と密接な関連をもって結城紬が存続してきたが、その伝統性に根ざす両者は、現在、いかなる状況にあり、どのような関連性をもつのか。また、それらによって生み出される地域的特色は何か。以上の点を最終的には地域区分を行なうことによって考察する。

(2) 枠 組

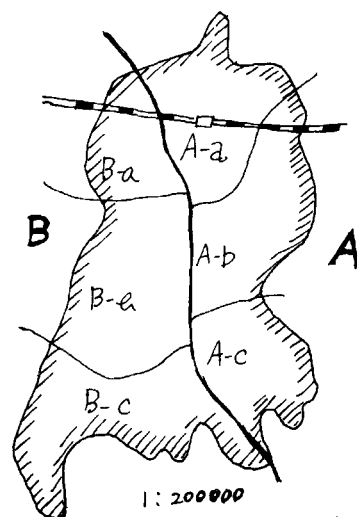
本論文の枠組は、まず第Ⅰ章で自然環境、人文環境の面より地域を概観し、第Ⅱ章で結城市の農業の現況を、特に兼業状態に注目して考察し、また、83枚の集落カードの詳細なる分析と地図化、特記すべき宮崎集落における戸別調査結果の分析と総合を通して、集落別状況を把握した。第Ⅲ章で紬生産地域の関東機業地域における位置づけを行ない、鬼怒川沿岸流域の生産地域を確認し、さらに結城市内部における紬従事に関する地域分化を明らかにした。第Ⅳ章においては、結論として紬と農業との関連における地域区分をすることにより、地域的特色を考察した。

(3) 結 果

鬼怒川沿岸低地の砂礫地という土地条件が桑畑を存続させ、養蚕と紬の生産関係を生み、紬の技術的伝統を、藩の援助、技術者の努力、国の重要無形文化財への指定、ということによって継承させ、一千年余の伝統性を維持してきた。しかしながら、その伝統性の中においても、次の諸点の変化しつつあることを結論として指摘しうる。

① 養蚕は現在においても当地域の農業を特色づける優位部門であるが、生産された繭は、大部分がそのまま移出され、紬の原料である真綿は、その約90%が、福島県保原町から移入されている。よって原料との結びつきは減少した。

② 紬生産工程は非近代的であり、そのほとんどが手作業によるものであるが、経済発展に応じ、分業化が進んだ。また、地域分化もしており大きく製織地域と糸つむぎ地域に分かれ、前者はさらにいざり機地域と高機地域に分化し



地域区分図